

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100375		
法人名	株式会社メディカメント		
事業所名	グループホームいやしの家備前		
所在地	岡山県備前市伊部323-1		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3371100375-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 7 年 3 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

備前市は昔から備前焼の里として知られ、その中心街の近くにホームがあり、静かな環境の中で生活しています。季節によりますが、午前中は日光浴をかね玄関先のベンチでおしゃべりをしたり体操をしたり時にはお茶をしたりしています。朝昼夕の食事を楽しみ、1人1人の特性を活かし塗り絵やパズルなど様々なその人が出来る事を日々の生活の中で思い思いにして頂いています。午後は洗濯たみなどそれぞれがの方ができることに加えテレビ鑑賞や読書などを楽しんでいただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者とスタッフの日常会話、レクリエーションや体操の音や声、調理の音や匂いなど、生活音や生活感が日常的に感じられ、居心地よく満足度の高い事業所である。優れている点として挙げられるのは、次の二点である。まず、車椅子から移乗して椅子に座るなど、利用者の身体状態が個々に異なっても皆と同じ空間で同じ椅子に座り同じ物を食べることが出来るように介助すると共に、同じサービスが受けられるように支援していること。次に、利用者の希望・要望を取り入れた食事メニューを作成し、スタッフも利用者と一緒に同じ物を同じ場所で食べるなど、利用者の気持ちを共有し食事が楽しみなものになるよう支援していることがある。その他、評価の高い取り組みとして、利用者のニーズにより週3回以上の入浴支援に取り組んでいることがある。工夫点としては、ユニットごとの建物の間取りは同じであるが、壁面装飾やテーブルなどの配置により、それぞれの特色(カラー)や雰囲気を活かして、楽しく共同生活していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム、廊下、洗面所等に掲示し月に1度のカンファレンスで共有し常に意識を高めて実践に繋げている。	洗面所・廊下・スタッフルーム等に理念を掲示するとともに、カンファレンスで読み合わせし、共有を図っている。また、「生き甲斐のある生活」そのものを大切にしたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏休み等のボランティアで地域の中学生から雑巾の寄付や計算問題の提供などの交流あり。	地域の祭りの見学や職場体験の受け入れ、保育園等の交流は控えているが、社会福祉協議会のボランティアの一環として、地域の中学校からの雑巾の寄付やパズル・計算問題等の提供は、継続して出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏休みに中学生のボランティア受け入れ認知症の方の理解を深めてもらっていたが、コロナ禍以降は受け入れができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に運営推進会議を実施しており、情報を共有したり、意見交換を行っている。	民生委員や地域包括、家族等が参加して、2ヶ月に一度、ユニット合同で開催している。家族には全員声かけしている。消防署立ち合いでの防災訓練の実施、認知症サロンの誘いなど、前向きに検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜応じて入居状況など、必要な時に連絡をとっている。	施設長が窓口となり、電話やFAXで必要な情報を報告したり重要書類を持参したりして、連携を図っている。また、運営推進会議の際に地域包括や介護保険課に取り組み状況等を伝えながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を2か月毎に行い基本的な禁止対象を理解し、疑問等は話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に一回、カンファレンスの中で各ユニットごとに分かれて、身体拘束適正化委員会を開いている。また、年2回、各ユニットごとに分かれて、身体拘束ゼロの手引きやネットから引っ張った資料をもとに、読み合わせたり動画を活用しながら、拘束しないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については事業所内の研修資料などを基に研修会を開き職員の理解と知識の向上をはかり虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学んだことは職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時など分かりやすい言葉で説明し、質問しやすい雰囲気作りを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族や行政に出席していただき、近況報告をしたり意見を聞いて運営に反映している。	利用者は普段の会話の中から、家族は面会時や電話連絡した際に意見や要望を聞き取っている。出された意見は、食事メニュー（ウナギや寿司など）や花見などに反映している。また、面会時間の緩和については、法人へ要望を出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施しているカンファレンスで職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	職員の意見や提案は、カンファレンスや休憩時間、事業所内での日常的な会話の中で聞き取っている。出された意見は、夜勤回数や連休の取得、利用者のケア等に反映している。また、急な体調不良や家族の罹患など、その都度、業務やケアの調整、見直しを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一回、業務管理委員会があるので施設長及び管理者が代表者に状況報告し環境の整備や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保しやすいようシフトを調整し協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者が定期的に集まり報告会を開きサービスの質の向上の取り組みをしていたが、コロナ禍以降は開催していない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や、不安の多い頃には、より細やかな配慮を心掛け、不安なく過ごし、そこを取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後初期の面会時には細かく生活の様子を伝え、安心して頂けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の好みや家族の要望を見極め必要とする支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を活かせるように過度な介護はせず家事などの出来る事を職員と一緒にしてもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会自体は制限があるがその中で情報共有を行い、日頃の様子などを報告し安心して安全な環境の中で支えていくことを常に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と関係が途切れないよう対応を心がけている。	家族による病院受診や携帯電話の取次ぎ、面会の緩和など、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理をせず利用者の個性を大切にしつつ利用者同士が支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても訪問しやすい環境を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の意思を尊重して出来るだけ希望に添えるようにしている。	利用者の思いや暮らしの希望等は日常会話の中で把握している。食事の希望が多く、メニュー等に反映してる。また、アイパッドで好きな景色の写真をスタッフと一緒に見たり、いつも使う場所(席やソファ、洗面台など)がいつも通り使えるように配慮するなど、本人の思いや希望を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴の聞き取りをし入居後に活かしつつその後の本人との会話の中で発見していくことに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日頃からしっかり様子観察をしていつもと違うことがあれば申し送りでつないでいくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月ごとのカンファレンスでモニタリングを行い、家族の意見を参考に作成している。	モニタリングは月に一度のカンファレンスで検討し、必要であれば見直ししている。変化がなければ見直しは1年ごとに行っている。介護計画作成時、本人・家族の他、医師や薬剤師の意見やアイデアも反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活がみえるような記入にしており家族、職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活歴や家族の状況に合わせ1人1人のニーズにあった対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントなどに参加して楽しめるよう支援していたが、現在は思うように参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回協力病院の往診を受け、その時の対応で受診になることもある。時には家族様の対応で受診も行っており、いつでも受診の対応ができるように協力病院との話もできている。	元々のかかりつけ医を継続することは可能である。現在は利用者全員、事業所の協力医をかかりつけ医としている。月2回協力医が訪問しており、24時間気軽に連絡・相談できる体制が整っている。訪問看護や訪問歯科の口腔ケアも受けることができ、他科受診は主に家族が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護で看護師に報告し指示をもらい、受診等の対応を主治医と相談し適切な判断を安心し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診時や訪問看護時に適宜必要な情報交換、共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が無い場合、家族、訪問看護、主治医と看取りの話し合いをし、納得のいく支援に取り組んでいる。	契約時に指針の説明を行い、同意を得ている。重度化した場合は利用者の状態・状況に合わせて対応しており、食事ができない時は病院に入院、それ以外は家族、医師等を交えて、方針等について話し合っている。年1回、看取りの動画研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から様子観察をしっかり行い、申し送りやカンファレンスで初期対応の時期を逃さない実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜の想定でそれぞれの避難訓練を年2回行っている。防災訓練もカンファレンスの時に初動の対応などのシュミレーションを実施している。	年2回昼夜想定のもと、ユニット合同で火災・水害時の避難訓練を行っており、利用者も参加している。また、年1回、地震を想定した訓練も行っている。BCP(事業継続計画)も作成済みであり、年2回、BCPに基づいた研修も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を理解し、尊重した対応を心掛けている。プライバシー保護の観点からは、きめ細やかな対応を心掛けている。	洗面台の配置どりやソファの座り位置など、その場所が使用できるように配慮し、利用者の気持ちに沿った支援をしている。また、出来ることは必要以上に手助けせず、本人のやりたい気持ちを大切に見守りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活ケアにおいて利用者の状態やその時の気分や状態において対応し職員は業務優先にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押し付けにならないように1人1人のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服を選んでいただいたり、意思表示しにくい方には同じ服にならないよう配慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節メニューや誕生日にはちらし寿司をしたりと、食事を味覚的、視覚的にも楽しめるようにしている。食事後にはテーブル拭きやお盆拭き等の後片付けを一緒にしている。	職員が交代でメニュー作成や材料の買い出しを行い、3食手作りしている。また、スタッフも利用者と同じ物を同じ場所で食べることで、利用者の様子とその時の食事の味や形状などから、利用者理解に繋げている。そして、車いすの利用者も椅子に座り、食事しやすい様にクッションを使用したり、季節が感じられる食材を使用したり、行事食や利用者の希望メニューを取り入れたりして、食事が楽しくなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量や体調を把握し、適宜調整をしたりし、支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。歯科の助言を取り入れながら出来ないところは介助し、入眠前には義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックでパターンを把握し1人1人にあったトイレ誘導を行い一部介助や見守りで対応している。日中は利用者全員がトイレでの排泄を夜間は利用者の状態で1人1人応じた対応をしている。	昼夜ともにトイレでの排泄を基本としており、排泄記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導に努めると共に、羞恥心に配慮しながら支援している。ポータブルトイレの設置はしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排泄パターンを把握し牛乳などの飲み物の提供や軽い運動、薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望も取り入れて入浴をゆっくりと楽しめるよう支援している。入浴後は保湿ケアに努めている。	週3～4回、利用者の希望に合わせて入浴支援しており、ゆったりと湯船に浸かって快適な時間になるよう配慮している。また、保湿剤で皮膚保湿に努め、冬至にはゆず湯で寛いでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず就寝まで思い思いの時間を過ごしてもらい安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は1人1人の薬を把握しており、薬の相談がある時は薬剤師に尋ね納得のいく服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の出来る事を活かし、日常の中で様々な事を楽しみながら、個性を尊重し、役割が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は玄関先に出て外気浴をしたり、年に数回、ドライブを兼ね人混みが無い所でのお花見などの外出支援を行っている。	密を避けながら職員と一緒にサイクリングロードの入口付近にある桜や閑谷学校の紅葉、日笠地区のバラ等を見に行ったりして、気分転換を図っている。また、敷地内の散歩や日向ぼっこを日常的に行っている。家族との外出・外食は控えている。	職員による外出支援は出来ているので、次は、家族と外出する機会を持つことに期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば代理で買い物する支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があったりと希望が叶うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画や装飾品などで工夫している。感染対策を心掛け換気や加湿対策も行っている。	リビングの壁面には利用者と一緒に作成した季節の作品などが飾られ、全体的に落ち着いた雰囲気を感じている。また、ゆったりと寛げるソファもあり、動きやすく使い勝手の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがある、テレビコーナーなど思い思いに過ごせる居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はタンスの上に写真等を飾り、本人にとって居心地の良い過ごしやすい状態にしている。	孫の写真やテレビ、使い慣れた化粧品等が持ち込まれており、個々に居心地良い空間となっている。居室内は綺麗に整理整頓され、ベッドやタンスは利用者の身体状況・状態に合わせて配置している。また、安全な動線も確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動出来るよう配慮し分かりやすく色々と表示している、		